

早い時期からの「療育」が大切です

療育とは、医療や訓練、教育などを通じて、社会に適応して自立できるように育成することです。発達障害は、一生治らないものと考えられがちですが、適切なケアによって進行を抑えたり、状況を好転させるのは決して無理なことではありません。

成長するに従って社会との関わりが濃密になるほど、発達障害の弊害に悩むことが多くなります。適切なケアを受けないままですと、やがて「うつ病」「不安障害」「強迫性障害」「アルコール依存症」など、さまざまな二次障害を引き起こしてしまうことがあります。

現在、発達障害が認められる就学児童に対しては、生活や学習上の困難を改善または克服するために、特別支援教育が行われています。少しでも早く適切な環境において療育を受けることで、社会への適応力をのばしていくことができます。



困ったときは専門の相談機関を利用しましょう

発達障害は、その診断が難しく、抱えている問題や一人ひとりの特性によって支援方法も変わってきます。気になる行動があったり、悩みごとを抱えてどうしていいかわからないときは、専門機関や専門医に相談しましょう。

発達障害についてご質問やご相談は、
最寄りの「発達障害者支援センター」にお問い合わせください。

発達障害に関する情報や「発達障害者支援センター」の所在地については

『発達障害情報・支援センター』
<http://www.rehab.go.jp/ddis/>

「嘉麻市発達支援連携協議会」

嘉麻市では、個別の支援を必要とする子どもの早期発見、早期対応を行うために、関係機関連携のもと、『嘉麻市発達支援連携協議会』を設置しています。発達支援に関する課題を検討し、適切な支援を継続して行える体制作りを目指します。

お子さんの気になる『行動』や『特性』で気がついたことがあれば、どんなことでも保育所(園)・幼稚園や学校の先生、健康課の保健師にご相談ください。

- 嘉麻市健康課母子保健係 …… TEL 0948-53-1104
- 嘉麻市こども育成課児童係 …… TEL 0948-53-1115
- 嘉麻市教育委員会学校教育課 …… TEL 0948-57-3107

あなたは知っていますか? 発達障害について

監修/目白大学人間学部
心理カウンセリング学科教授
小野寺 敦子



近年、発達障害に対する関心が高まっています。子どもだけではなく、大人になってから、はじめて発達障害であることがわかるケースも増えてきました。

発達障害のある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手で、社会への適応力に不安を抱えており、そのために本人や家族などが誤解や偏見を受けることもあります。わたしたち一人ひとりが正しい知識を持ち、障害を持つ人が安心して暮らせる社会づくりについて考えていきましょう。

嘉麻市発達支援連携協議会

発達障害を正しく理解するために

発達障害については、誤解や偏見が少なからず存在します。まずは、発達障害の基礎的な知識を身につけておきましょう。

Q そもそも発達障害って どういうことなの？

A 発達障害は、“発達の遅れ”という意味ではなく、“脳機能の発達に関係する障害”という意味です。通常低年齢で発現し、社会生活への適応力に問題が生じるもので、うつ病などの「心の病気」とは異なります。

発達障害のある人は、対人関係を築くのが不得手な場合が多く、「自分勝手な人」「困った人」などと誤解されることも少なくありません。

また、抱える困難や能力は個人差が大きく、診断時期によっても診断名が異なることがあります。



Q 発達障害は 何が原因で生じるの？

A 発達障害が生じる原因は、まだはっきりと解明されていません。脳の前頭前野や尾状核と呼ばれる部位が、何らかの原因によって発達を阻害されることから生じると考えられています。

発達障害は、周囲にはその特性や困難な状況がわかりにくいいため、親の育て方やしつけ、本人の努力不足が原因と思われやすいのが現状です。このような誤解や偏見をなくしていくためにも、発達障害に対するわたしたちの正しい理解が不可欠です。



Q 大人にも、発達障害の人が 増えているって本当なの？

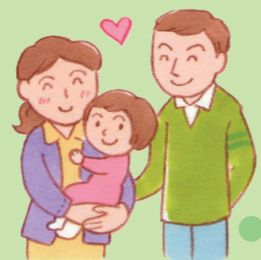
A 発達障害は生来のものなので、成人後に突然出現するわけではありません。ただ、就職後に仕事の作業能力について指摘を受けたり、職場での対人関係に苦しみ、自ら病院を訪れて発達障害とわかるケースが増えています。社会とのつながりが深くなるにつれて

“生きにくさ”を感じ、「うつ病」を併発するなど深刻な状況を招くこともあるので、周囲の理解や適切なサポートが重要です。



Q 発達障害でも、学校や職場 などで集団生活をする ことができるの？

A 発達障害の人は注意力に欠けたり、コミュニケーションが苦手だったりするので、集団生活には不向きだと思われがちです。しかし発達障害は“先天的なハンディキャップ”なのではありません。その人がどんなことが得意で、何が苦手なのかを把握し、適切な対応を行えば、その個性や能力を十分に活かすことができます。会社勤めを長く続けたり、結婚して子どもに恵まれている人もたくさんいます。



発達障害の種類と症状

ひとくちに発達障害と言っても、その特徴によって症状はさまざまです。発達障害のおもなタイプには、次のようなものがあります。

自閉症

人との交流がうまくできなかつたり、言葉の発達に遅れが見られます。特定の物や場所に、強いこだわりを示すなどの特徴があります。



アスペルガー症候群

自閉症と同様の症状が現れますが、知的発達や言葉の発達に遅れはありません。



※2013年に米国精神医学会の診断手引き(DSM-5)が改訂されたことにより、自閉症とアスペルガー症候群は同じ特徴を有するが、その程度が異なるスペクトラム(連続体)であることを意味する「自閉症スペクトラム」として論じられるようになってきています。

注意欠陥多動性障害(ADHD)

集中力が長続きせず注意力が散漫(不注意)、落ち着きがなくじっとしてられない(多動性)、衝動に任せて行動を起こしてしまう(衝動性)などの特性があります。成人期には、とくに不注意による失敗が目立つようになります。



学習障害(LD)

知的能力には遅れがないにも関わらず、読む、書く、計算するなどの特定の分野に障害が見られることをいいます。LDが単独で出現することもあります。自閉症やADHDと併存しているケースが多く見られます。



発達障害に早期に気づくためのポイント

発達障害は早く気づいて適切な対応をすることで、社会への適応能力を身につけていくことができます。次のような症状は、発達障害の人によく見られる特徴の一例です。

- 注意力や集中力がなく、気が散りやすい
- 忘れ物や、物を失くすことが多い
- 急に予定が変更になると不安になる
- 整理整頓ができない
- 興味があることには異常なほど熱中する
- 大きな音や光、人ごみが苦手
- 感情の起伏が激しい



発達障害の人に接するとき心がけたいこと

- 発達障害は個性のひとつと考え、できないことを責めるのではなく、できることをのばしていくようにしましょう。
- 仕事や行動の指示をするときは、あいまいな言い方は避け、できるだけ具体的に話をするようにしましょう。
- 急に怒り出すなどの問題行動があっても過剰に反応をせず、冷静に対処することを心がけましょう。

